

かんたん♪

シンポジウム申請 マニュアル

シンポジウム関連資料送付先・問合せ先

公益社団法人応用物理学会 講演会担当
meeting@jsap.or.jp 03-3828-7724



シンポジウムって何？

応用物理学会の講演会には、各専門分野の通常講演（大分類・中分類内の発表）以外に、今ホットな話題を扱う、「シンポジウム」があります。シンポジウムは**会員の方ならどなたでも企画可能**です。講演会では、毎回20～30程度のシンポジウムが開催されます。

第77 回応用物理学会秋季学術講演会 公募シンポジウム

ナノ界面現象と評価技術の現状と課題 Current Trends and Issues in Nanointerface Phenomena and the Characterization Techniques

日時：平成28年9月13日（火） 13:15～18:15、会場：B7

有機分子デバイスの研究が活況を呈してきています。しかし、これまで以上に界面電子現象の理解が進み、界面の制御が可能となれば、さらなる飛躍や新分野の開拓が期待されます。本シンポジウムでは、この分野の第一線で活躍しておられる研究者の方々に最新動向をご紹介いただき、さらに、一般講演も加えて、ナノ界面現象とその評価技術の今後の展望を議論します。皆さまのお越しをお待ちしております。

招待講演（アイウエオ順）/講演題目

- 石井久夫（千葉大）/高感度紫外光電子分光による有機半導体のバルク・界面電子構造評価
- 岩本光正（東工大）/有機デバイス界面の電気現象と電気的・光学的評価手法
- 梶弘典（京大）/有機EL素子内で何が起きているのか、その基礎的理解を目指して
- 白井肇（埼玉大）/結晶 Sn/PEDOT:PSS 接合太陽電池
- 内藤 裕義（大阪府大）/界面現象を利用した有機デバイスの高性能化
- 長谷川 健（京大）/pMAIRS：非平滑・非晶質有機薄膜デバイスの分子配向を明らかにする新技術

企画：応用物理学会 有機ナノ界面制御素子研究会 (NICE研究会) <https://annex.jsap.or.jp/NICE/>

世話人：宇佐美清章（大阪産大）、梶井博武（阪大）、小林隆史（大阪府大）、三浦康弘（桐蔭横浜大、代表）

連絡先：yfmiura@toin.ac.jp（三浦康弘）

第77回 応用物理学会 秋季学術講演会
多元系化合物・太陽電池研究会 企画シンポジウム

多元系化合物の機能性評価技術の新展開 — 多元系デバイス開発への知見提供 —

2016年9月13日（火） 13:30～18:00
B9会場（展示ホール内）

■シンポジウム企画趣意

多元系化合物においては、GaAs系やCIGS系などの太陽電池が既に実用化されており、さらにCZTS系をはじめとして次世代の太陽電池材料として期待されている硫化物・窒化物・硫化物などの研究開発を通じて、その限りなく多機能性に大きな注目が寄せられています。また、太陽電池分野のみならずピントロニクスやマルチフェロイクスなどの各分野においても、多元系化合物材料を用いた次世代デバイス応用を目指した研究開発が展開され、注目を集めています。これらの多元系化合物デバイスの高性能化においては、それぞれに固有な機能的特性の明確化が重要ですが、多元であるが故に明確な理解は未だ十分ではありません。

本シンポジウムでは、多元系化合物の機能性評価技術における最近の先進的トピックスを紹介し、太陽電池材料をはじめとする多元系化合物に固有な物性を明らかにし、これらの統一的理解を深めることを目的とします。また、多元系化合物の機能的特性の明確化を通じて、新規機能発見や機能融合化に向けた現状および課題についても議論します。みなさまのご参加をお待ちしております。

■プログラム（敬称略）

- 13:30 「放射光 X 線を用いた多元系化合物の3次元原子イメージ」 細川伸也（阪大）
- 13:45 「3次元アトムプローブ評価法による多元系超伝導体の物性解明」 内藤高隆（長岡技大）
「Effect of Post-deposition Se-annealing on the defect distribution in CuGaSe_2 Thin-films and Solar-cells」 Muhammad Monirul Islam（筑波大）
- 14:00 「電気・光学的評価法による多元系化合物の物性解明」 櫻井尚樹（筑波大）
- 14:15 「IP-KFMによるCIGS太陽電池の光起電力測定と異質結晶成長特性」 藤原博（東大）
- 14:30 「正・逆光電子分光法による多元系化合物・デバイスの評価」 寺田敦典（鹿島大）
「ハイブリッドパワァー半導体による高バンドギャップ・異質結晶 Ag(In,Ga)Se_2 異質太陽電池の評価」 梶原誠（東工大）
- 14:45 「光学的評価法によるCIGS基層膜および太陽電池の評価」 白方洋（愛媛大）
「Junction フォトルミネッセンス法を用いたCdTe太陽電池におけるCu添加効果の検討」 植名和由（東大）
- 15:00 「分光感度スペクトル解析による $\text{Cu}_2\text{ZnSn(S,Se)}_4$ 太陽電池のキャリア収集効率評価」 中根章裕（阪大）
- 15:15 「ハロゲン化鉛ペロブスカイトの光物性」 金光義郎（京大）

世話人：加藤裕也（ソラーフロンティア）、坪井達（新潟大）、杉田浩（東京理科大学）
お問い合わせ先は Takeya.Katou@solar-fronier.com までお願いします

第77 回応用物理学会秋季学術講演会

6.3 酸化物エレクトロニクス・合同セッションK「ワイドギャップ酸化物半導体材料・デバイス」
分科会企画シンポジウム

酸化物エレクトロニクスの未来展望を描く

Toward future applications of oxides electronics; past, present and future

開催日時：2016年9月13日（火）13:15～18:15

機能性酸化物は、そのユニークな特性を活かし、エレクトロニクス業界をはじめ、様々な産業分野で社会の発展に貢献してきました。過去の歴史を振り返ると、高温超伝導の発見を端緒に、透明伝導性、High-k、不揮発性抵抗スイッチなどの特性を持つ材料群が開発され、すでに実用化に至っているものもあります。一方で、研究段階では多くの注目を集めながらも、長い間、実用化の機会を持つに留まっている材料も多いのが実情です。

本シンポジウムは、過去のエポックメイキングな材料開発の歴史を振り返りつつ、酸化物エレクトロニクスを捉えなおす機会を持ち、実用化を控えた材料に必要な技術構築体制について議論することを目的に企画されました。

招待講演（アイウエオ順、敬称略）/講演テーマ

- ◆ 魏志強（パナソニック）/ローパワーマイコン向けTaOx ReRAMの開発
- ◆ 神谷利夫（東京工業大）/なぜ a-IGZO TFT が実用化されたか
- ◆ 佐々木公平（タムラ製作所）/酸化ガリウムエビ/基板開発の進展
- ◆ 中川原 修（村田製作所）/エビタキシャル電極を用いたSAWデバイスの実用化
- ◆ 福島 伸（東芝）/半導体テクノロジーの進展に果たしたHigh-k 酸化物の役割

皆様のお越しをお待ちしております！

企画：機能性酸化物研究グループ (<http://green-innovation.jp/grefon/>)

世話人：勝勇人（代表世話人、村田製作所）、秋永広幸（産総研）、阿部友紀（鳥取大）、川原村敏幸（高知工大）、神吉輝夫（阪大）、相澤広志（高工ネ研）、田中秀和（阪大）、廣瀬晴（東大）

第77回 応用物理学会 秋季学術講演会 特別シンポジウム

超スマート社会へ向けた応用物理

～第5期科学技術基本計画への期待と課題～

本特別シンポジウムでは、「超スマート社会（Society 5.0）」の実現に向けた応用物理の役割と発展方向を探るため、基本計画を深く理解するとともに、基本計画への期待と課題について議論いたします。



【プログラム】

- 13:00 はじめに
保立 和夫（応用物理学会 会長、東京大学 理事・副学長）
- 13:10 基調講演：「我が国の科学技術イノベーション政策～第5期科学技術基本計画を中心に～」
久間 和生（内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常務議員）
- 14:00 「ICTの飛躍～本格化するAI/Big Data/CPS～」
佐根 秀幸（富士通研究所 代表取締役会長）
- 14:40 「自動走行システムの実現に向けて～日本政府の取組みと今後の課題～」
梶野 秀誠（SIPP、トヨタ自動車 主席）
- 15:20 「新しい材料から創る未来社会」
窪田 現一（東京工業大 教授）
- 16:00 休憩
- 16:20 総合討論：
司会：西川 勉一（豊田中央研究所 部長）、高井 まどか（東京大 教授）
パネラー：久間 和生、佐根 秀幸、梶野 秀誠、窪田 現一、保立 和夫
「第5期科学技術基本計画への期待と課題」（10分）
窪田 現一（パネチドリーム 代表取締役社長）
- 17:40 おわりに
財高 謙明（応用物理学会 副会長、名古屋大 副総長）

総会司会：横山 直樹（応用物理学会 副会長、富士通研究所 フェロー）

入場無料
（事前登録不要）

会場：ホテル日航新潟
4階 大宴会場 朱鷺

主催：公益社団法人 応用物理学会、企画：応用物理学会インストラリアルチャプター



3種類のシンポジウム

応用物理学会には3種類のシンポジウムがあります。



1 特別シンポジウム

応用物理学会が学会をあげて開催するシンポジウム。一般会員は実開催不可。現地実行委員企画、インダストリアルチャプター特別企画などの特別な企画もののみ。特別シンポジウムの参加費は無料で、講演会以外の参加者の参加が可能。



2 分科企画シンポジウム

シンポジウムを取りまとめる人（世話人）に、プログラム編集委員※が1名入っていれば企画可能。現在一番件数が多いのがこれ。開催日を選べます。



3 公募シンポジウム

応物会員なら誰でも企画できるシンポジウム。開催日は講演会初日のみ。



私のシンポジウムは何シンポジウム？

- ・応用物理学会本体の企画である
- ・講演会の現地実行委員の企画である
- ・特別な事情がある

はい

特別シンポジウム

いいえ

シンポジウム世話人にプログラム編集委員※を入れることができる

はい

分科企画シンポジウム

いいえ

公募シンポジウム

分科企画シンポジウムは開催日を選べます。公募シンポジウムは開催日は講演会初日のみです。また、分科企画シンポジウムの方が、公募シンポジウムより申請書の提出締切が遅いです。もし、分科企画シンポジウム・公募シンポジウムどちらでもよろしければ、分科企画シンポジウムとすることをお勧めします。

※プログラム編集委員

講演会前に開催される「プログラム編集委員会」の委員。「プログラム編集委員会」において講演会のプログラムが決定する。各中分類毎に数名のプログラム編集委員がおり、委員数合計は約200名。参考まで、2018年春のプログラム編集委員リストは以下に掲載しています。

https://meeting.jsap.or.jp/jsapm/wp-content/uploads/2017/05/program_committee_list.pdf

プログラム編集委員の方にお知り合いの方はいらっしゃいませんか？

プログラム編集委員は200名ほどいます。プログラム編集委員とお知り合いであれば、なるべく、世話人に入ってもらえるよう依頼してください。（見つからなかったら公募シンポジウムで企画して下さい。）



分科企画シンポジウム提案のコツ

(1) プログラム編集委員はいつ決まりますか？



- ・ 春の講演会向けなら、前回秋の講演会時に、秋の講演会向けなら、前回春の講演会時に、プログラム編集委員の交代についての話し合いをしています。世話人を頼むなら、一つ前の講演会時に話を出すのがベストタイミングです。
- ・ 任期は2年の人が多いですが、人によりバラバラですので、一斉に交代というわけではありません。
- ・ プログラム編集委員が確定して、HPで公表するのは登壇申込が始まる頃（春は12月頃、秋は5月頃）です。
- ・ 事務局には最新の情報がありますので、次期プログラム編集委員がわからなければ、meeting@jsap.or.jpまでお問い合わせください。

(2) 結局誰に頼めばよいのですか？



- ・ この分野のシンポジウムなら誰に入ってもらうのが適切だろう・・・そのような疑問があれば、大分類の代表にお伺いするのが良いと思います。
- ・ 大分類代表の連絡先が不明でしたら、こちらから問い合わせますので、meeting@jsap.or.jpまでご連絡ください。

(3) プログラム編集委員は見つかりました。で、どうしたらよいの？



- ・ 期日までにシンポジウムの提案書を書いてください。提案書ができれば、分野が一番近い大分類代表に、シンポジウム開催の許可をもらってください。（開催可否の最終決定は委員会で行います。）
- ・ その後、書いて下さった方でも、プログラム編集委員でも、大分類代表からでも、どなたからでも良いので、事務局meeting@jsap.or.jpに提案書をご提出ください。
- ・ 提案後の流れは次頁以降をご参照下さい。

(4) シンポジウムを企画して、何かメリットはありますか？



- ・ 講演会企画運営委員会の判断になりますが、聴講者を集めることができる、非会員の招待講演者であれば、応用物理学会より旅費のサポートができる可能性があります。自分でシンポジウムを開催すれば、自分が呼びたい講演者を呼ぶことができます。
※旅費規程については最終頁をご参照ください。
- ・ シンポジウムは通常セッションに比べ参加者が多く、分野の発展に寄与することができます。

(5) これってそもそも、分科企画シンポジウムでしょうか。特別では？



- ・ 分科会50周年企画や、記念的なものであれば、特別シンポジウムでも企画可能な場合があります。一度meeting@jsap.or.jpまでご相談下さい。



シンポジウム提案方法

※以下、赤字箇所がシンポジウム世話人（企画者）の仕事です。

1. 提案内容をフォームに記入する

以下に申請フォームがあります。

https://www.jsap.or.jp/activities/annualmeetings/2018/2018s_application.html



2. 受理メールを大分類代表に転送して承認をもらう

最も関連している大分類代表に受理メールを転送し、開催を承認してもらってください。連絡先が分からなければmeeting@jsap.or.jpまでお問い合わせください。



3. 講演会企画運営委員会にて審議

他のシンポジウムと重複がないか、ふさわしい内容か、旅費サポート額は適切か等を審議します。ここで開催の可否を決定します。



4. 承認

5. 招待講演者の登録依頼が事務局から送られる

招待講演者ではなく、シンポジウム世話人の方へお送りします。



6. 招待講演者をウェブで登録

シンポジウム世話人の方が招待講演者を登録してください。登録と同時に招待講演者に、登壇依頼メールが送られます。



7. 登壇締切までに招待講演者が登壇申込



8. シンポジウム当日



9. シンポジウム報告書（形式自由）を作成、事務局に提出

世話人よりmeeting@jsap.or.jpまでメールにて送付してください。応用物理学会HPに掲載します。





シンポジウム提案スケジュール（2018年春）

2017年10月20日(金) 公募シンポジウム申請締切

2017年11月13日(月) 分科企画シンポジウム申請締切

2017年11月15日(水) シンポジウムの採択を審議・決定

2017年11月下旬に審査結果をお知らせいたします。

2017年12月22日(金) までにwebで招待講演者情報を登録

審査を通過したシンポジウムの世話人の方は招待講演者の情報(氏名, 所属, 講演タイトル等)をwebサイトでご登録ください。

ご登録いただいた招待講演者の方に事務局から講演および登壇申込の依頼のメールをお送りします。webサイトのURLは審査結果をお知らせするメールに掲載いたします。

2018年1月16日(火) 登壇申込締切

登壇申込が完了していないとプログラムが空欄になりますので、世話人は講演者の方のフォローをお願いいたします。

2018年1月22日(月) プログラム編集委員会

世話人にご出席いただき、招待講演と一般講演を組み合わせるシンポジウムのプログラムを編成してください。

2018年1月末ごろ 各講演者へ講演番号通知

2018年3月17日(土)～20日(火) 春季講演会

【開催可能日】

分科企画シンポジウム 2018年3月17日(土)～20日(火)

公募シンポジウム 2018年3月17日(土)のみ

【開催可能時間】 9:00～19:00

2018年4月上旬 非会員講演者に交通費お支払い

• 勤務先から講演会場までの往復の交通費(国内)をお支払いいたします。

※ 会員には旅費の補助はございません。また、会員は講演会参加費が必要です。ご注意ください。

2018年4月下旬 シンポジウム報告提出



よくあるご質問

Q.招待講演者の講演会参加費は必要ですか？

A.会員の方は、参加費の支払いが必要です。非会員の方は不要です。
講演会時に、Registrationで参加票をお渡しします。

Q.招待講演者に謝金は出ますか？

A.出ません。

Q.招待講演者の旅費サポートはありますか？

A.会員の方は、ありません。

非会員の方は、申請して認められれば、旅費がサポートされます。
申請書提出時に申請してください。サポート額等の詳細は本頁下部
規程を参照ください。

※集客できる方、呼び寄せる意義がある方に限ります。2018年春は旅費に割ける予算が少ないので、なるべく会員の方を招待していただくようお願いしています。

Q.小さなシンポジウムも開催可能ですか？

A.おおむね100名以上の参加者が見込めるものをご提案下さい。

Q.一般投稿を受け付けず、自分たちだけの講演で完結するシンポジウムにしたいのですが。

A.特別シンポジウム以外は、特別な理由がなければ一般講演の投稿も受け入れてください。結果的に一般投稿が0件になる分には構いません。

<講演会時の旅費取扱い規程抜粋>

応用物理学会非会員を春季・秋季学術講演会に招待講演を依頼した講演者に対する旅費の取り扱いは、以下の通りとする。

2) 海外招待講演者

- ① 航空運賃はエコミークラス割引往復料金（日付変更なし）運賃利用とする。
- ② 国内旅費は国内到着空港から講演会場の往復運賃を支給する。
新幹線及び特急を利用する場合は指定席普通運賃利用とする。
- ③ 宿泊料は1泊につき表3に規程する甲地方の金額を上限とし、最長2泊分を支給する。
- ④ 航空運賃、国内旅費、宿泊料は原則実費支給とし、支払金額の上限は、アジア15万円、欧米30万円とする。その他の地域は、基準を超えない範囲で学術講演会担当理事の判断により支給する。
- ⑤ 外貨建てによる旅費の請求に対しては、春季・秋季学術講演会開催初日の2週間前（銀行休業日の場合はその前営業日）の三菱東京UFJ銀行公表のTTSLレートをもって計算する。
- ⑥ 計算された旅費の合計額に1,000円未満の端数がある場合は、それを切り捨てて支給する。

3) 国内招待講演者

- ① 旅費規程（役員等）に準じて旅費を支給する。但し、日当及び宿泊料は原則支給しない。やむを得ず宿泊が必要となる場合は、1泊分を上限として表1の宿泊料を支給する。